

<仮訳>

IFNEC 執行委員会会合ステートメント

2016 年 10 月 27 日

まずはガダノ次官及びアルゼンチン政府に IFNEC 執行委員会会合及び南米原子力エネルギーステークホルダー会議の開催について謝辞及び賞賛を申し上げます。

東日本大震災から 5 年が経過しました。以来、福島第一原発では、廃炉・汚染水対策が着実に進み、除染・環境回復活動も進展し、避難区域も縮小しています。今後も事故の教訓を IFNEC 参加国及び国際社会に共有していきます。

日本産食品の安全確保の取組も継続していきます。既に多くの国で日本産食品の輸入規制措置が撤廃されましたが、科学的根拠に基づいた政策の実施が重要と考えます。

原子力は、安全性の確保を大前提に、安定供給性、経済効率性、温室効果ガス排出削減等の観点から重要なベースロード電源です。福島第一原発事故の教訓を踏まえ策定された新規制基準を満たした原発は、設置自治体の理解も得ながら、再稼働を進めていく方針です。

高いレベルの原子力安全を維持することは終わることの無いチャレンジです。日本は、更なるテクノロジー開発を通じて、世界の原子力安全への貢献を繰り返し申し上げます。日本は、原発導入国・輸出国の関係者を始め、国際協力に関わるあらゆるステークホルダーに対して原子力安全への配慮を呼びかけます。我々は、アドホック需給者グループの創設についての最近の議論を歓迎する、それは、原子力安全を皆で議論するに適した場を提供しようとするからです。

IFNEC は、原子力発電を既に確立している国と新たに参入する国との相互の協力のための卓越した場です。日本は、IFNEC が参加国の最も重要なニーズを取り上げ、目に見える形で貢献できることを真に願うもので

す。その意味で、我々は、最近の IFNEC サーベイについても内部改革の第一歩として価値あるものとみています。最後に、我々は、ささやかですが、日本の自主的拠出金が IFNEC の効率的で成果のある運用に貢献することを願います。